

2015年12月18日  
日 本 銀 行  
金 融 市 場 局

## 2016年1月以降の長期国債買入れの運営について

日本銀行は、長期国債買入れについて、2016年1月以降、当面の間、以下のとおり運営することとしました（2016年1月4日より適用）<sup>1</sup>。

—— 次回公表は2016年1月29日17時を予定（原則として、毎月、最終営業日に公表する取扱いに変更はありません）。

### 1. 買入金額

毎月8～12兆円程度を基本とする<sup>2</sup>。ただし、政策効果の浸透を促すため、市場動向を踏まえて弾力的に運用する。

### 2. 買入対象国債

利付国債（2年債、5年債、10年債、20年債、30年債、40年債、変動利付債、物価連動債）

### 3. 国債種類・残存期間による区分別の買入金額

別紙のとおり

### 4. 買入頻度

月8～10回（営業日）程度（必要に応じて回数を増やすことがある）

### 5. 買入方式

コンベンショナル方式による入札

- ・ 利付国債（変動利付債、物価連動債を除く）：利回較差入札方式
- ・ 変動利付債、物価連動債：価格較差入札方式

以 上

<sup>1</sup> 本日から12月30日までの間の長期国債買入れについては、2015年11月30日に公表した「当面の長期国債買入れの運営について」のとおり運営することとし、同文中、12月30日17時に行う予定としていた次回公表は、この公表をもって代えることとします。

<sup>2</sup> 政策委員会が決定した現在の資産買入れ方針のもとで、2016年中のグロスベースでの国債買入れ額は、保有国債の償還額の増加により、2015年中の約110兆円から、約120兆円に増大する見込みです。

(別紙)

< 2016年1月以降の当面の月間買入予定 >

(単位：億円)

	残存期間	オファー回数	1回あたり オファー金額	合計
利付国債(変動 利付債、物価連 動債を除く)	1年以下	2回程度	500~1,500程度	1,000~3,000程度
	1年超5年以下	6回程度	6,000~10,000程度	36,000~60,000程度
	5年超10年以下	6回程度	3,000~6,000程度	18,000~36,000程度
	10年超	5回程度	3,000~6,000程度	15,000~30,000程度
変動利付債<偶数月>		隔月1回	1,200程度	1,200程度
物価連動債<奇数月>		隔月1回	400程度	400程度

(注1) 上記2つまたは3つの残存期間区分(変動利付債および物価連動債も各々1つの区分として数えます)を同時にオファーします。

(注2) 買入対象銘柄の残存期間が重複する利付国債の入札日(流動性供給入札を含む)には、原則オファーしません。また、物価連動債および変動利付債の買入は月の後半に行います。

(注3) 残存期間1年超5年以下および残存期間10年超については、残存期間の区分を細分化して同時にオファーすることがあります。

(注4) 2016年1月4日以降の最初のオファー金額は、残存期間1年以下700億円、残存期間1年超3年以下4,000億円、残存期間3年超5年以下4,200億円、残存期間5年超10年以下4,500億円、残存期間10年超25年以下2,600億円、残存期間25年超1,800億円、変動利付債1,200億円、物価連動債400億円とする予定です。